

Title	ON時間OFF時間
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2015
Jtitle	新版 窮理図解 No.21 (2015. 12) ,p.6- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000021-0006">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000021-0006</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 安藤 和也の ON と OFF

2013年4月に立ち上げた安藤研究室。  
それまでの道のりを振り返ります。



## 誕生日

修士2年生だった2008年の春から夏にかけ、当時ケンブリッジ大学博士研究員だったTheo（写真右端）が研究室に滞在しており、研究室のメンバーで彼の誕生日を祝ったときの写真です。Theoとは光学系を使って半導体のスピン流に関する実験を一緒に進めていました。議論するとき私の英語はめちゃくちゃだったと思いますが、辛抱強くつきあってくれたのを思い出します。写真中央の黒い服を着ている中山くんは、現在私の研究室で特任助教として活躍しています。



## イギリス

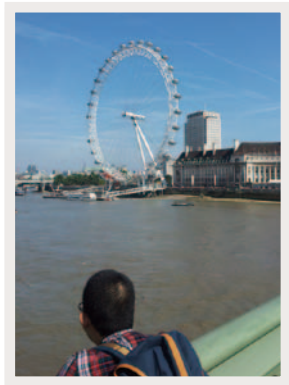
慶應義塾大学で博士を取得してからは、東北大学に移転していた齊藤研究室に助教として着任しました。

Theoを頼ってケンブリッジに滞在し、実験していた頃の写真です。このときの実験は思ったようには進みませんでしたが、次の研究につながる出会いがありました。



## 共同研究

写真に写っているのは当時ケンブリッジ大学博士研究員だった渡邊峻一郎さん。滞在中に知り合い、週末にロンドンに連れて行ってもらいました。この滞在中には一緒に実験はしませんでした。新しい研究の可能性を2人で議論し、仙台に帰ってからはこのときの議論をベースにした研究を一緒に進めることになります。



## 仙台

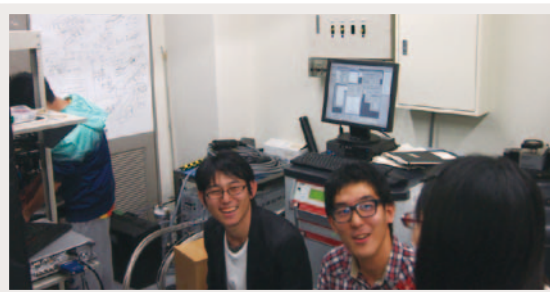
学部4年生のとき、慶應義塾大学に出来たばかりの齊藤研究室に第1期生として入りました。2006年に新しく立ち上がった齊藤研究室ですが、私が東北大学を離れる前年の2012年には写真のような大きな研究室に成長していました。



## 独立

2013年4月、自分が卒業した物理情報工学科の教員として慶應義塾大学理工学部に戻って

きました。学部4年生で新しい研究室に入ったときと同じく、何も無い部屋からもう一度スタートです。写真は着任時と3カ月後の実験室の様子。



## 引っ越し

最近も新しい実験装置の搬入が続いているので、部屋のレイアウトを時々見直しています。写真は実験装置の引っ越しの1コマです。装置を動かすために黙々と準備を進める学生と、それが終わるのを待つで雑談している学生達。

## 歓迎

2015年に入ってから、フランスからの留学生Amineと中国からの博士研究員の安さんが合流し、国際色豊かな研究室になりました。学生のアイデアで、自分で焼けるお好み焼き屋さんにて2人の歓迎会を開催しました。

